

プロレタリア国際主義と組織された暴力万歳!

世界革命統一戦線日本協議会を組織せよ!

(一九七五年五月三〇日)

日本赤軍

本日のリッタ空港襲撃三周年集会に結集した同志諸君、友人そして戦士諸君!

ベトナム—カンボジア革命勝利の熱い統後に支えられながら、パレスチナ革命戦場が、不退転に前線を堅持、進撃していることを、そして我々日本赤軍も又、その前線で共に闘い続けていることをこの集会にむけた最良の連帯として表明する。

帝国主義支配は、人民の時代—人間による人間に対する搾取・被搾取関係を廃絶する闘いの中でおおいような

ない正体を日々暴露されながら、敗北を重ねている。しかし同時に、敵・帝国主義者共は、自らの利益を延命させる為に、ずるがしこく、たくみな再編を続けている。奴等は、「平和共存」を叫ぶことによって、革命的兵士・人民、プロレタリア陣地をたぶらかし彼等の「平和共存」の枠組の中に、すべての政治潮流を押し込めようとしている。

歴史の流れが、革命と人民の正義を要求するが故に、帝国主義者共は、攻撃用核兵器を軸とする安保—

NATO—OAS軍事同盟を背後に「平和」について語るることによって、帝国主義利益の延命の方法を人民におしつけようとしている。ベトナム—カンボジアにおける大敗北を教訓化し、アラブ戦場に「平和共存」の為のミニ・パレスチナ国家提案への道—ジュネーブ会議の提唱を行うことによって、資源収奪、搾取、商品市場として帝国主義政治の中に、経済、軍事総体を組み込もうとしている。ジュネーブ会議の話し合いの場という幻想をふりまき、右翼反動民族主義政権を、資本主義経済として「近代化」せしめ、パレスチナ全土解放の人民の要求を弾圧し、変えようのない歴史の波を反革命へと先行的に組織しようとしている。

ミニ・パレスチナ国家が、たとえ現実化することが可能なら、唯一それは、右翼民族主義、ファシズム、イスラエル・シオニスト、米帝の同盟者としてのみ、奴隷の立場の中で許されるのであり、パレスチナ解放、人民の為の民主主義国家として建設しようというのは、敵の中にくみ込まれた幻想にすぎない。

今、人民とマルクス・レーニン主義革命主体、左翼的民族主義者の組織は、この幻想を闘いの中で一步一步切り崩すことを、すなわち、敵の「平和共存路線」を突破

する階級的闘いを、不退転、不屈に持続させている。

四月にひきおこされたレバノン右翼ファランジストによる、反ミニ・パレスチナ国家案グループ—拒否戦線に対する挑発的な市民バスへの攻撃による虐殺は、拒否戦線を圧殺するどころか、逆にレバノン進歩派、中間派を越えて、パレスチナ革命連帯勢力をつくり出し、右翼ファランジストに対する反撃を組織せしめ、帝国主義と結託した挑発者は、孤立を深めている。と同時に、パレスチナ革命総体が、決定的な転換点に立たされていることを我々は、はっきりと確認しなければならぬ。何故なら、日本—パレスチナ革命連帯の内実が、この転換をいかなる階級的立場からとらえるのかということだが、日本のパレスチナ連帯—日本革命の闘いとして問われているからである。

今PLO指導部に代表されるミニ国家案派とPFLPに代表される拒否戦線との間で、人民にむかって開かれた論争が続いている。我々は、この問題を次の様に問う。つまり、敵の延命の協力者として実現不可能なミニ国家を目的化するのか、それともただ革命を堅持するのか?

闘いの困難を敵との妥協でのり込めようとする右派グループの目論見は、ベトナム—カンボジア革命勝利の

前で、日々色あせながら進歩的という枠をかなぐりすて、彼らの同盟者をサダト、フセインにまで拡大させてでも幻想の建国に人民をひきつれていこうとしている。それでも拒否戦線派は、PFLPを軸に、帝国主義者、妥協主義者の弾圧に抗して不屈に粘り強く、しぶとく、したたかに革命堅持にむけて人民を組織している。拒否戦線が、未だ戦術に對置して戦術的に結集した統一戦線ではない現在の状況においても、全パレスチナ人民の闘いを全的に包摂しえる対応性と方向性を可能性として持っている段階に到達している。

この革命堅持、全土解放にむけて開かれた闘いの中にこそ、真の人民戦争を媒介とする、人民の民主主義的な建国を唯一可能ならしめる方向が存在している。我々日本赤軍は、マルクス・レーニン主義の立場から、この現実を直視し、即目的な妥協がパレスチナ人民の正義を売りわたす結果を招くことを、すなわち、人民戦争の結果として解放区をプロレタリア被抑圧階級の独裁として闘いとることぬきに、ミニ・パレスチナ国家を目的化してはならないという立場を堅持し、我々は、拒否戦線—PFLPの政治路線を共に我々日本赤軍の立場から担うことよって断固として革命を堅持する！

らえかえず中で、我々は深く地下活動を通じて、建党—建軍の闘いの中で、同志たちと一つの隊伍を担うであらう。

いまだ端緒でしかない敵への遊撃戦による破壊の現時点を、階級的な結果をめざし、国際主義の地平からとらえかえし、破壊の質を獲得の質へと、敵との対峙戦を地下に組織し合い、一分野における闘いをあらゆる分野における系統的、持続的な闘いへと組織し合い、別個に進んで別個に撃ちつづけるが、味方を保存し全方面にわたる遊撃戦を、蜂起—プロレタリアートの独裁へと階級的な、全面的な闘いへと成長せしめる為に我々も又、その一端を今、準備しつづけるであらう。

日本赤軍の持続的なゲリラ戦を誕生せしめた、テルアビブ闘争の歴史的意義の上に、非妥協的な革命戦争を我々は断固堅持する。

このテルアビブ闘争の地平とは、まさに、世界階級闘争の対峙情勢を主導的に闘い抜く、世界党—世界赤軍建設にむけた主体を具現した最初の闘いであり、第二に、被抑圧階級の普遍的利益を最良の形態で、PFLPとの共同武装闘争によつて最前線の任務を保証した階級的団結の深さであり、第三に、革命主体形成にむけ、国際主義

そればかりか、アラブ戦場—パレスチナ戦場と、アジア戦場を一つに統一し、単一の革命戦場として人民の統一を目的意識的に追求しながら、敵の「平和共存路線」を突破しつづけて、世界同時革命にむけた地下対峙戦の陣型を固めていく。

今、断固として闘う地平とは、敵の「平和路線」を我々の平和の道—人間の搾取、被搾取関係を廃絶する闘い—の唯一の目的にむけて、あらゆる場所、あらゆる方法で革命勝利を実践し抜くことである。

同志・友人・戦士諸君！ 更なる団結した進撃を誓おう！

日本の中で今、東アジア反日武装戦線をはじめとする同志たちの闘いが、五月一九日の八名の戦士の逮捕にもみられる恐怖にひきつった権力の狂暴な反革命弾圧、フレイム・アップ、反動プロバガンダの嵐にさらされながらも持続的で系統的な真の遊撃戦争の萌芽を担いつつあることを我々日本赤軍は断固として支持し、我々も又、我々の立場において遊撃戦争を闘い抜くことを約束する。東アジア反日武装戦線の同志が、一分野として担っている系統的で持続的な闘いを更に、日本階級闘争における人民と共に闘える構造へと、階級形成としてと

と革命の暴力を、シオニスト・イスラエルとの闘いの中に表現することよつて、反帝反シオニズムの闘いを担う可視、不可視の主体に對するプロレタリア階級と、その闘いの結合環を統一戦線としてテーゼする内実としてあり、第四に、日本階級闘争の中で、不断に切望されていた世界—一国の接点として、日本階級闘争の中から誕生した主体の組織的闘いを軸に、日本人民の革命連帯の萌芽を示し、第五に、この闘いに表現された戦士の作風—思想の共産主義的内実である。

このテルアビブ闘争によつて獲得した質を堅持—発展させることこそ、我々日本赤軍の原則方針としてある。

このテルアビブ闘争を戦士の作風のみ一面化、純化するこつによつて、決意の方針化に転倒されるのではなく、発展しぬくこととは、この地平を、いかに組織的質量的内実へと、人民との結合にむけて闘いを持続発展せしめるのかという革命戦争にむけた、我々の担うべき方向を示している。つまり、リッダ空港襲撃闘争を担う主体的な力量の困難さを越えて、具現ならしめた組織性を、武装闘争の持続発展におしとどめ固定化するのではなく、武装闘争を軸とする革命党—軍形成へと、世界的規模の戦線的統一戦線—共産主義運動の組織化として、

日本国内—アジア規模の遊撃を我々は、日本の同志諸君と共に担うことを要請されている。

パレスチナ革命戦場においても又、テルアビブ闘争の地平はマロット作戦、キリヤト・シェモーナ作戦へと引きつがれ堅持され、拒否戦線の闘いの基盤の中に、そして、人民の革命堅持の思想の中に生き続けている。

闘う日本の同志・友人・戦士諸君！

プロレタリア国際主義のリッダ空港襲撃—テルアビブ闘争の地平を共に我々と担いつつ進撃しよう！

唯一それは、革命政治を人民と共に貫徹すべく、世界同時革命をめざす党的主体・グループが、一つの党一つの軍形成を、世界—日本革命を担う責任として問われている。今こそ、世界同時革命を闘い抜く共産主義者の党・軍の建設を、日本国内において世界革命統一戦線日本協議会へと組織し、世界の統一戦線主体と同質な闘いを担うことが要請されている。

世界の同志たちと共に、建党建军過程にある我々日本赤軍は、世界同時革命にむけて、共に、日本の共産主義者党建設—赤軍建設の為の、まづもつての協議会形成を相互組織し合うことを呼びかける。この協議会運動を共産主義運動として、プロレタリア国際主義と組織された暴

力を真に復権せしめ、日本の地において、日米帝国主義反革命に対決する全分野における遊撃戦を系統的持続的に、協議会への地下結集を軸におし進めんことを呼びかける。

党派政治が、革命政治を疎外し続けていた過去の闘いを「党派性」という組織利己主義を、革命政治における二義的な内実としてとらえるところから止揚し、革命政治を協議会運動の中で、自己批判—批判の運動として打ちきたえ、共同綱領—共同実践獲得にむけて、妥協のない思想闘争を敵への打倒にむけて組織しよう！

スターリニズムによって生み出された自己批判のない批判は、分裂と敵対で革命陣地を墮落させて来たし、自己批判—自己改造のベクトルを持つ革命堅持の思想性を持って、共産主義運動として、世界革命統一戦線日本協議会を単一の革命党革命軍建設にむけて相互組織しよう！

我々は今、リッダ空港襲撃—テルアビブ闘争三周年を迎え、テルアビブ闘争の闘いの地平が築いた世界革命統一戦線テーゼを軸に、自らを検証し、勝利の革命にむけて多くの同志たちと団結を深めている。そして、この小さく若い我々は、いくつかの実践の失敗の中で、同時に

実に多くの教訓を得、学んで来ている。

今、二人の我同志が、日本帝国主義の極度の恫喝の中で孤立した状況にあることを、そして、我同志が、敵に対して完全黙秘で闘い抜いていないことを我々日本赤軍は、事実として認めざるをえない。我々は、我が二人の同志が、苦境の中で耐え、無念の想いかられたであろう敗北感を、まづなによりも敵への憎悪、階級的憎悪として我々の建军過程の中に刻み込み断固として反撃を組織する。

そして我同志二名の事態を、日本赤軍全体の思想性の未だ弱さ、組織性の未だ弱さとして自己批判的にとらえ、勝利の確信に燃えた革命思想として深化すべく、不退転に自己批判内実を貫徹することを全世界・日本人民・同志共闘組織、そして同時に敵・帝国主義者共に対して宣言する。

それは唯一、我々の敵に対する非妥協な闘いの貫徹、持続をもって同志・友人・戦士たちに裁かれるべき、我々の榮譽ある革命堅持の内実としてある。我々は必ずや、二人の我同志と再会し、再結集し、再度革命戦士として赤軍兵士として迎え、闘い抜くことを、我々の革命の作風—思想性として貫徹する。二人の我同志を加え検

証し合い、思想を共有し、敵のスキャンダラスなデマゴークではなく、我々は、革命にむけて検証作業を貫徹し抜き、その時点で、日本赤軍としての立場を再度明らかにしていくことを約束する。我同志のダメージは、日本赤軍のダメージのみならず、共闘主体、全世界の闘う人民のダメージであり、我々の思想は、断じて敵権力に屈するものであってはならない。ベトナムの、パレスチナの、三里塚青行隊の完全の思想は、階級的闘いの深さの表現であり完全が、革命を、人民を防衛する唯一の捕虜の前提である以上、それを貫徹しえなかった責任は二人に帰するのではなく、いまだ、日本赤軍がもつ弱さであることを痛苦を持ってうけとめ、敵打倒にむけて、更に強固で大胆な隊伍に組織しながら闘い抜くことを自己批判にかえて宣言する。

三戦士によって切り拓かれたリッダ空港襲撃—テルアビブ闘争の闘いの革命的地平と、共産主義思想の勇敢無私の非妥協性を、日本赤軍の原則基盤へと深化せしめ、必ずや勝利の革命の先頭に起って闘い抜くことを、この日本赤軍誕生の日、テルアビブ闘争三周年に誓って、我々の連帯の意の表明にかえたい。

。テルアビブ闘争の地平を堅持し、更なる進撃を！

- 。プロレタリア国際主義と組織された暴力万歳ノ
- 。日本―パレスチナ―ベトナム―カンボジア革命万歳ノ
- 。アジア―アラブ戦場を単一の戦場へと組織せよノ

。世界―日本革命にむけて、世界革命統一戦線日本協議会を単一の建党―建軍として組織せよノ

五・三〇リッタ空港襲撃闘争三周年集会へ向けて